



平成 22 年 8 月 5 日

各 位

会 社 名 ザインエレクトロニクス株式会社
代表者の役職名 代表取締役社長 飯塚 哲哉
(JASDAQ・コード番号：6769)
問 い 合 せ 先 取締役経営企画部長 高田 康裕
電 話 番 号 0 3 - 6 8 6 0 - 0 6 6 6

V-by-One[®]HS Standard version1.3 リリースのお知らせ

－3D 対応、シネマ解像度対応を強化し業界のトレンドを先取り－

弊社は、テレビ、プリンタ、ネットワークカメラ、アミューズメントなどの分野における次世代映像信号インターフェースとして V-by-One[®]HS を提唱し、2007 年には簡易仕様の公開、2008 年には詳細仕様を提供しており、その後も積極的な普及活動を行ってまいりました。この度、V-by-One[®]HS Standard version1.3 を策定し、3D (3 次元) テレビのコストダウンに貢献できるようにするとともに、3D コンテンツの視聴やインターネットテレビと言ったトレンドと共に期待されるシネマ解像度に対応した内容とすることとしましたのでお知らせします。

V-by-One[®]HS Standard は、テレビ市場における高画質化に伴い、テレビ内部インターフェースの高速化と簡略化により、テレビの画質向上とトータルコストダウンの要求に応えるために開発されました。例えば、3D テレビの内部インターフェースは、1 秒間に 120 コマの立体画像とする場合、従来のインターフェースの LVDS (Low Voltage Differential Signaling) では、48 対のケーブルが必要であるのに対し、V-by-One[®]HS を用いた場合には、その 6 分の 1 の 8 対のケーブルのみで情報伝送できます。

1 対のケーブル当たり 3.75Gbps の高速伝送を実現し、画像伝送品質の向上、EMI^(注1)、消費電力、ケーブル・コネクタなど含めたトータルコストの低減による大きなメリットを実現できます。

弊社では、既に全世界で 100 社程度の企業に V-by-One[®]HS Standard を配布しました。ロイヤリティ無料で仕様を適用できることとしており、普及が進んでまいりました。

3D 元年となる今年において、V-by-One[®]HS Standard version1.3 をリリースするポイントは以下の 2 点です。

まず、3D が普及してきた状況とお客様各社からのニーズを踏まえ、右目用画像と左目用画像を識別する信号の規定方法を統一的に規定しました。これにより、画像エンジン LSI、3D 対応パネル、テレビセットなどの異なる開発会社間におけるインターフェース部分の調整およびそれに必要な開発工数が不要となりコスト削減に寄与することができます。

さらに、3D の重要なコンテンツである映画をテレビで見るトレンドの増加に対応して、横縦比 21 : 9 の画面の解像度 (いわゆる「シネマ解像度」) を新たに定義しました。V-by-One[®]HS では、シネマ解像度でテレビの内部インターフェースを構成する場合にも、最も少ないケーブル本数での実現が可能です。これにより今後のシネマ解像度対応の 3D テレビやインターネットテレビが増加

していくことをサポートしてまいります。

V-by-One[®]HS は、現在、世界中のテレビ及びテレビ関連部品メーカーが採用への意欲を表明しており、既に製品開発が進んでおります。テレビ向け映像処理 LSI で大きなシェアを持つ画像処理エンジン LSI メーカーにおいてはサンプルリリースがアナウンスされており、主要 FPGA 各社からも V-by-One[®]HS はサポートされております。また、ケーブル・コネクタメーカー、計測器メーカーにおいても V-by-One[®]HS 対応製品を既に量産中です。

こうした中で、テレビセット業界のトレンドを先取りした今回の V-by-One[®]HS Standard version1.3 のリリースにより、同標準が一層浸透していくものと期待されます。

■ V-by-One[®]HS Standard version1.3 の特長

- －3D 画像における右目画像と左目画像の ID 規定
- －シネマ解像度 (3.7Gbps/Lane) を定義
- －使い勝手の良い可変伝送速度で低消費電力 シリアル伝送速度：600Mbps ～ 3.75Gbps
- －高性能イコライザにより伝送品質が向上
- －CDR^(注2) (Clock Data Recovery)方式の SerDes による高速シリアル伝送により、ケーブルスキューの問題を抜本的に解決
- －EMI を低減 (クロック伝送ケーブルが無くリファレンス・クロック不要で低ノイズ) ーケーブル本数、コネクタ数の削減によるトータルコスト低減、省スペース化を実現
- －従来の LVDS からお客様の設計を大きく変更せずシームレスな移行が可能
- －AC 結合による使いやすさ

※「V-by-One[®]」はザインエレクトロニクス株式会社の登録商標です。

(注 1) EMI： Electro-Magnetic Interference (電磁障害)の略。電磁障害とは、電磁障害によって引き起こされる装置、伝送チャネルまたはシステムの性能低下のこと。

(注 2) CDR： Clock Data Recovery の略。クロック(電子システム動作に必要な時計)信号を他の情報に混合させて送信した上で、受信時にクロック信号を再生する技術。

ご注意:本文中における各企業名、製品名等は、それぞれの所有者の商標あるいは登録商標です。

<報道機関各位からのお問合せ先>

ザインエレクトロニクス株式会社 経営企画部 高田 康裕
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-8-3 丸の内トラストタワー本館 10F
TEL 03-6860-0666 FAX 03-6860-0808
URL: <http://www.thine.co.jp> E-mail: ir@thine.co.jp

<お客様各位からのお問合せ先>

ザインエレクトロニクス株式会社 営業企画部 三河 洋次
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-8-3 丸の内トラストタワー本館 10F
TEL 03-6860-0708 FAX 03-6860-0730
URL: <http://www.thine.co.jp> E-mail: sales@thine.co.jp